

6.診療科別主要手術別患者数（診療科別患者数上位 5 位）

症例数の多い手術件数を各診療科別に集計しました。項目は K コードに対する患者数、平均術前日数、平均術後日数、転院率、平均年齢、患者用パスの有無で、上位 5 位を掲載しております。

定 義

手術術式の点数表コード(K コード)による集計とし、輸血関連(K920\$)や創傷処理などの軽微な手術、加算等は除外とする。同一の K コードで複数の部位が対象となる手術は、DPC コードを用いて部位別に集計する。転院は、最終的な退院先が「転院」の患者とする。

●指標に示されるそれぞれの用語は以下の通りです。

◇K コード： 医科点数表で定められた、手術に対する点数表コードです。

◇名称(部位) 手術術式の名称です。同一の K コードで複数の部位が対象となる手術もあり、その場合は部位別に 集計しております。

(例)整形外科	K0461	骨折観血的手術(大腿)	}	2 種の手術件数は別集計となります
	K0461	骨折観血的手術(上腕)		

◇患者数：10 未満の数値の場合は、－（ハイフン）で表記。

◇平均術前日数：入院日から手術日まで(手術日当日は含まない)の平均日数です。

◇平均術後日数：手術日(手術日当日は含まない)から最終退院日までの平均日数です。

◇患者用パスの「あり」をクリックすると該当のクリニカルパスが表示されます。

【循環器内科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K616-41	経皮的シャント拡張術・血栓除去術（初回）	35	0.03	1.80	0.00%	72.00	あり
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術（その他）	23	2.96	2.22	4.35%	71.00	あり
K5461	経皮的冠動脈形成術（急性心筋梗塞）	19	0.05	17.00	0.00%	68.42	あり
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	16	1.13	7.19	6.25%	71.75	あり
K5463	経皮的冠動脈形成術（その他）	12	1.92	2.08	0.00%	78.42	あり

解 説

循環器内科では、人工透析を行っている患者さんのシャント閉塞に対するカテーテル治療を積極的に行っています。また、虚血性心疾患に対する冠動脈ステント留置術・冠動脈形成術といった心臓カテーテル治療も多く行っています。カテーテル治療とは、手首や足の付け根から心臓まで管を通して病変を治療する方法です。急性心筋梗塞に対する冠動脈手術では救命のために、一刻も早く行う必要があります。

【消化器内科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径 2 cm 未満）	133	0.32	1.46	1.50%	65.35	あり
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	51	3.69	8.84	7.84%	79.00	なし
K6871	内視鏡的乳頭切開術 乳頭括約筋切開のみのもの	24	4.13	5.83	8.33%	76.00	なし
K708-3	内視鏡的膵管ステント留置術	21	1.71	3.00	0.00%	63.43	なし
K6852	内視鏡的胆道結石除去術（その他のもの）	17	1.29	4.59	0.00%	79.76	なし

解 説

消化器内科では大腸ポリープ、胆管結石での入院が多くなっています。大腸ポリープ切除術では、内視鏡を用いてポリープの切除を行います。術後の経過をみて退院となりますが、多くの場合は1泊2日で退院されます。胆管結石では内視鏡的乳頭切開術や内視鏡的胆道結石除去術と共に内視鏡的胆道ステント留置術を行い、結石の摘出や胆管狭窄、胆管の炎症などに対しての治療を行います。また、慢性膵炎では内視鏡的膵管ステント留置を行い炎症の改善を図ります。

【小児科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K9131	新生児仮死蘇生術（仮死第1度）	16	0.00	6.31	6.25%	0.00	なし
K9132	新生児仮死蘇生術（仮死第2度）	-	-	-	-	-	-
K300	鼓膜切開術	-	-	-	-	-	-
K7151	腸重積症整復術 非観血的なもの	-	-	-	-	-	-

解 説

小児科では出生直後の新生児に対する蘇生術が最も多くなっています。蘇生術は新生児の状態（アプガースコア）によって2種類あり、（仮死第2度）のほうがより重症の状態となっています。また、腸重積で入院となった場合、「腸重積症整復術 非観血的なもの」という腸の閉塞を解除する手術を行う場合もあります。

【外科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	67	2.52	3.72	0.00%	63.67	あり
K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	33	1.55	2.88	0.00%	68.82	あり
K718-21	腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	30	1.00	4.17	3.33%	48.87	あり
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	18	5.39	17.28	0.00%	75.39	なし
K4765	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（胸筋切除を併施しない）	17	1.12	10.82	0.00%	64.53	あり

解 説

腹腔鏡下胆嚢摘出術は開腹して行う胆のう摘出に比べて術後の疼痛や体への負担が少なくなるため、胆のう結石や胆のう炎に対して多く行っています。また、入院期間の短縮にもなるので虫垂切除やヘルニアの手術も腹腔鏡下で行う場合が多くなっています。

また、乳癌や胃癌の手術も行っており、患者さんの状態に合わせて乳房部分切除やリンパ節郭清も積極的に行っています。胃癌に対しても胃切除術や全摘出術等の手術を腹腔鏡下と開腹術で施行しています。

【整形外科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0461	骨折観血的手術 大腿	67	2.78	20.79	64.18%	83.09	あり
K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術 (四肢・躯幹)	34	1.21	1.59	0.00%	49.71	あり
K0811	人工骨頭挿入術 股	29	3.93	21.93	72.41%	79.97	あり
K0311	四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術 (四肢・躯幹)	18	1.89	8.22	5.56%	63.33	なし
K0302	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術 (手・足)	15	1.27	2.07	0.00%	47.67	あり

解 説

最も件数が多くなっている骨折観血的手術（骨接合術）は、骨折に対してプレートやスクリューといった材料を用い、骨を固定する手術です。当科では大腿骨近位部（頸部・転子部）の骨折の症例が多く、骨粗鬆症を併発している高齢の女性が患者さんの多くを占めています。骨接合ではなく人工骨頭挿入術を行うケースも多く、こちらも 3 番目に多い手術となっています。

また、当科の特徴として骨・軟部腫瘍の症例も多く、良性・悪性問わず腫瘍の摘出術を行っています。腫瘍の部位や良性・悪性で手技は分かれますが、どの手技も上位の件数となっています。

【脳神経外科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	12	0.17	11.50	0.00%	75.33	なし
K178-4	経皮的脳血栓回収術	-	-	-	-	-	-
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	-	-	-	-	-	-
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング (1箇所)	-	-	-	-	-	-
K609-2	経皮的頸動脈ステント留置術	-	-	-	-	-	-

解 説

慢性硬膜下血腫は軽症頭部外傷の 1～2 ヶ月後に発症します。脳卒中疑いで救急搬送されることが多く、入院早期に穿孔洗浄術を行います。侵襲の少ない手術であるため高齢者でも適応になります。経皮的脳血栓回収術は、脳塞栓急性期にカテーテルにて血栓を除去して閉塞血管を再開通させる治療です。発症して直ぐに搬送された患者さんが対象で、緊急で行います。一般に脳梗塞ではリハビリ病院への転院を要する症例が多いのですが、閉塞血管を早期に再開通できれば予後は良く、転院せずに退院できる症例が多くなります。

他の手術は多くはないのですが、脳腫瘍に対する開頭腫瘍摘出術、脳動脈瘤クリッピング術、経皮的頸動脈ステント留置術などを適応に応じて行っております。脳梗塞を機に頸動脈狭窄が判明した症例ではステント留置術後にリハビリ病院へ転院することがあります。

【泌尿器科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	60	0.68	7.62	1.67%	66.88	あり
K7811	経尿道的尿路結石除去術（レーザー）	59	1.15	3.03	0.00%	61.68	あり
K8036 イ	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用）	37	2.68	10.95	0.00%	72.46	あり
K841-21	経尿道的レーザー前立腺切除・蒸散術（ホルミウムレーザー又は倍周波数レーザーを用いるもの）	23	2.00	7.39	0.00%	72.13	あり
K6121 イ	末梢動静脈瘻造設術（内シャント造設術）（単純）	15	8.80	21.40	6.67%	70.40	なし

解 説

経尿道的尿路結石除去術は、尿道から細径の内視鏡を挿入し、直接レーザーで結石を破石する手術です。結石が尿管の狭窄を起こすこともある為、この手術の前に経尿道的尿管ステント留置術を行うことも多いです。膀胱悪性腫瘍手術は、尿道から内視鏡を膀胱へ挿入し、電気メスで膀胱腫瘍を切除します。主に脊椎麻酔で行います。経尿道的レーザー前立腺切除術は、尿道を圧迫している腫大した前立腺を、内視鏡で数個に分けて核出します。核出した前立腺は、膀胱内で機械を使って細かくして摘出します。従来は開腹手術が選択されるような大きな前立腺にも適応しています。末梢動静脈瘻造設術（内シャント造設術）は、慢性腎不全の症例に対し、血液透析を導入する際に、局所麻酔にて前腕に動静脈吻合を行い、透析シャントを造設します。またシャント部分が閉塞した場合、位置を変え造設するケースもあります。

【婦人科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K877-2	腹腔鏡下腔式子宮全摘術	135	1.07	5.21	0.74%	47.70	あり
K8882	子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡）	114	1.00	3.17	0.00%	39.93	あり
K872-2	腹腔鏡下子宮筋腫摘出（核出）術	66	1.00	6.56	0.00%	38.58	あり
K861	子宮内膜搔爬術	38	0.97	0.11	0.00%	48.26	あり
K867	子宮頸部（腔部）切除術	38	0.00	2.03	0.00%	44.34	なし

解 説

子宮筋腫や子宮内膜症において、子宮摘出の適応がある方は主として腹腔鏡下腔式子宮全摘術を施行しています。妊孕性温存手術として、腹腔鏡下子宮筋腫核出術、子宮附属器腫瘍摘出術も積極的に手術をしており、近隣の診療連携での紹介患者がそのほとんどを占めています。

【産科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K8982	帝王切開術（選択帝王切開）	123	2.22	6.11	0.00%	34.72	あり
K8981	帝王切開術（緊急帝王切開）	63	2.48	6.33	0.00%	33.14	あり
K893	吸引娩出術	11	1.55	4.18	0.00%	32.18	なし
K8721	子宮筋腫摘出（核出）術（腹式）	-	-	-	-	-	-
K8882	子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡）	-	-	-	-	-	-

解 説

産科手術の主なものは帝王切開です。当院での帝王切開率は現在40%を超えています。既往帝王切開や骨盤位などによる選択的帝王切開の麻酔は腰椎麻酔です。胎児機能不全や母胎合併症に伴う緊急帝王切開では全身麻酔での管理となることもあります。最近、前置胎盤や臍帯付着異常といった胎盤因子が多い印象です。麻酔管理は原則、産科麻酔を専門とする麻酔科医師にお願いしています。新生児蘇生のために、小児科医師も手術に立ち会います。

【眼科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K2821ロ	水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）（その他）	247	0.04	1.01	0.00%	75.07	あり
K2801	硝子体茎頭微鏡下離断術（網膜付着組織を含む）	15	1.07	7.27	0.00%	69.07	あり
K279	硝子体切除術	-	-	-	-	-	-
K224	翼状片手術（弁の移植を要する）	-	-	-	-	-	-
K278	硝子体注入・吸引術	-	-	-	-	-	-
K2822	水晶体再建術（眼内レンズを挿入しない場合）	-	-	-	-	-	-

解 説

眼科入院の８割で、白内障手術（＝水晶体再建術）を行っています。入院日に局所麻酔にて手術し、翌日退院となります。日帰り入院での手術にも対応しています。また、片眼の手術後に一旦退院し、後日再入院して反対側の眼の手術を受けられる患者さんもいます。次いで挙げられるのが、増殖糖尿病網膜症や網膜前膜に対しての硝子体茎頭微鏡下離断術です。術後の連日眼科検査を行い、平均１０日後に退院となっています。患者さんの状態によっては、白内障手術と硝子体術を同時に行う事もあります。

【耳鼻咽喉科】

Kコード	名称	患者数	術前日数	術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K3772	口蓋扁桃手術 摘出	29	1.00	7.31	0.00%	15.48	あり
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術３型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	18	1.00	6.33	0.00%	50.28	あり
K368	扁桃周囲膿瘍切開術	13	0.00	6.08	0.00%	46.08	なし
K340-6	内視鏡下鼻・副鼻腔手術４型（汎副鼻腔手術）	11	1.00	7.00	0.00%	52.18	なし
K347	鼻中隔矯正術	-	-	-	-	-	-

解 説

耳鼻咽喉科で多い手術は、慢性扁桃炎や扁桃肥大に対して行う口蓋扁桃手術（摘出）です。口蓋扁桃手術では、同時にアデノイド手術も行う事もあります。口蓋扁桃手術に次いで多いのが、内視鏡下鼻・副鼻腔炎手術です。アレルギー性鼻炎や鼻中隔彎曲症も併発している患者さんが多く、同時に鼻甲介手術や鼻中隔矯正術も同時に行います。また、扁桃周囲膿瘍切開術も多く実施している手術の１つです。扁桃周囲膿瘍切開術で入院する患者さんの多くが、症状の悪化に伴い緊急入院で手術を行う事があります。